

〈後期評価〉平成26年度 萩市立明倫小学校 学校評価書 校長名(柳林浩一)

「伝統ある明倫館の学風および松陰先生の教育精神に学び、さらに格調高き明倫教育の創造に努め、もって国家社会の形成者となる有能な人間の育成を図る。～人としての生き方を学び、共に高まりあう子どもの育成～」を基調とし、次の4つの項目を中心に伝統をふまえた創意ある教育活動の展開に努める。
 ① 保護者や地域社会との連携を深めて教育活動を充実させる。【開かれた学校づくり】
 ② 主体的に学ぶ学習活動の展開に努める。【熱く燃える心、学ぶ力や創る力の育成】
 ③ 心豊かな感性を育む教育の推進に努める。【温かい心、生き抜く力の高揚】
 ④ 安心・安全な学校づくりを推進する。【安心・安全な学校づくり】

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

○特色ある学校づくり ○朗唱や松陰読本と児童の日々の生活を結び付けるための、めあての設定や振り返りの取組が定着してきている。学校だより・校長室だよりや学年だより・学級だよりの発行、Webページの更新等、積極的に情報発信をしてきたことが保護者や地域からの声に成果として表れている。
 ●全教職員が松陰教育に取り組み意義や実施方法を共通理解し、総合的な学習の時間や道徳や学級活動、学年集会等による実践の検証・改善が求められる。情報は様々な方法で具体的に内容を発信するとともに、指導すべきことを含め担任の思いや願いを伝えていく必要がある。
 ○学力の向上 ○「書いてかかわり合う活動」を重視した計画的な校内研修を通して、「めあて」「一人学び」「とも学び」「振り返り」の流れを教員が共通理解して取り組み、授業改善による学力の向上を進めることができた。自主学習を3年生以上の全校的な取組として実施することができた。
 ●「自学ノート」や「自学ノートの展示」など、自主学習の具体的な情報提供を進めてきたが、今後もより一層の家庭と連携した家庭学習のレベルアップを図ることが求められる。授業改善においては、明確なめあてを提示し教師の手立てをさらに工夫して行う必要がある。
 ○心の教育の充実 ○「7mのあいさつ」の具体的な指導が保護者や地域からも理解を得られ、児童の変容として表れてきた。教員の働きかけによって、係活動や委員会活動等において主体的に企画・運営をして、みんなのために取り組む児童が増えてきた。
 ●「あいさつ」については、全教職員が共通理解の上、指導を徹底して行う必要がある。児童の主体的な取組を今後も意図的に設定し、「志」をもたせる目標設定のあり方や働きかけの方法を教員間で共有し、教育活動の充実を図ることが求められる。
 ○安心・安全な環境づくり ○配慮を要する児童への対応として、校内コーディネーターや生徒指導主任等を中心に、情報交換会やケース会議等を開き、担任が一人で抱え込むことのないように連携体制を構築することができた。
 ●特別支援教育関係の職員は、各分掌に配置され、研修や会議、情報交換等により日常的に意思の疎通を図り、連携して対応にあたることができるようになることが今後求められる。
 ○業務改善 ○会議の効率的な運営と時間短縮により会議の延長時間を縮小し、学級事務の時間確保を意図的に実施してきた。業務データを適切に管理し、業務の効率化につながった。
 ●会議の内容についての精選と新校舎での計画や新たな試みに対する傾注を図り、児童への教育活動に還元することが求められる。文書集中管理や一つの職員室での運営による効果も期待したい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

「ひたむきで ぬくもりのある さわやかな明倫小学校」をめざす学校像として掲げ、次の4点を重点的に取り組む。
 ① 特色ある学校づくり:心を育て、才能を伸ばす教育として、「成徳達材」と「松陰教育」を基底に据えて推進する。朗唱や松陰読本の活用についての授業等の実践を進め、家庭や地域に効果的に情報発信を行う。
 ② 学力の向上:動機づけや意欲づけを大切に、教師の手立てを明確にした授業改善を中核にすえての学力向上や、自主学習や読書等の家庭学習の充実に向けた取組を家庭と連携して進める。
 ③ 心の教育の充実(明倫小ABCの充実と発展): (A)相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」を実践する。(B)美しい心と美しい環境づくりに努める。(C)めあてに向かって主体的に取り組む児童を育てる。
 ④ 安心・安全な環境づくり:いじめのない楽しい学校づくり、一人ひとりの理解に努める生徒指導を推進する。全教職員が共通理解した組織的な指導と児童の主体的な取組の両面を大切に推進する。

4 自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
特色ある学校づくり	松陰教育の推進	○松陰教育(朗唱・松陰読本の活用等)を根幹とした教育活動を展開する。 ・朗唱、松陰読本とかかわりのある教育実践(道徳・キャリア教育)の推進	4: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が80%以上 3: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が60%以上 2: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%以上 1: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%未満	4	89%の教員が肯定的な評価をしている。前期の85%より若干伸びている。今後、さらに松陰教育プロジェクトチームで協議したことを中心に情報発信の工夫や授業等での積み重ねをしていくことが大切である。日々の朗唱と共に教職員が意識して、総合的な学習の時間・教科・道徳などの教育活動の中に充実させていくことが求められる。
	保護者・地域との連携強化	○積極的な情報発信を行う。 ・学校だより、学年・学級だよりによる教育活動についての積極的な情報発信	4: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が80%以上 3: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が60%以上 2: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%以上 1: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%未満	4	93%の保護者が、肯定的な評価をしている。教員も、94%であり、積極的な情報発信ができていくことが評価されている。各種のたよりには、写真や作文を入れるなど具体的な活動の様子やわかるものが多く、喜ばれている。連絡帳や電話による個別の対応も密に行われている。
学力の向上	学力向上プランの改善と実践	○学力向上プランの改善を図る。 ・家庭学習の充実 ・自主学習の推進	4: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が80%以上 3: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が60%以上 2: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が40%以上 1: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が40%未満	3	保護者の肯定的な評価は77%である。一方、児童は87%、教員は96%であり、保護者との評価に開きが見られる。研修部では、教員に効果的な自学の紹介「自学ノートだより」等が毎月出され、担任も工夫しているが、保護者の協力の下に充実した家庭学習を仕組んでいく必要がある。
	授業研究・授業評価をととした授業改善	○校内研修のテーマに基づき、書いてかかわり合う活動を通して高め合う活動の充実を図る。	4: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が80%以上 3: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が60%以上 2: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が40%以上 1: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が40%未満	4	89%の教員と児童が共に肯定的な評価をしている。校内研修をとおして、児童にわかりやすい具体的なめあてを提示したり、書いたことを基にかかわり合う活動を多く取り入れたという授業改善をしてきた成果である。特に26年度は、校内研修に外部講師3人による指導も仰いだ。今後も、研修を積み重ねていきたい。
心の教育の充実	明倫小(A)	○相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」ができる児童を育てる。 ・「相手の目を見て、いい顔で、相手より先に、続けよう」	4: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が80%以上 3: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が60%以上 2: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%以上 1: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%未満	4	91%の児童と96%の教職員が肯定的な評価をしている。学校全体で「7mのあいさつ」に3年間継続的に取り組んでいることの結果である。一方、保護者は80%とやや低い評価である。教員が見ていなくても明るく元気なあいさつができるよう地域や家庭との連携による指導が求められる。
	明倫小(B)	○心を美しく磨き、美しい環境づくりができる児童を育てる。 ・いじめを絶対にしない ・履物を揃える ・花壇の世話をする ・とりかき早くし、黙って時間いっぱい掃除をする	4: だまって一生懸命清掃ができた児童が80%以上 3: だまって一生懸命清掃ができた児童が60%以上 2: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%以上 1: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%未満	4	96%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は94%であり、前期の82%から大きく伸びた。なぜ無言清掃なのか何度も話合った学級もある。今後は、委員会活動や係活動とも運動させ、児童自らにその必要性を認識させていく必要がある。学年に応じて今後も全校体制で継続的に指導していくことが求められる。
	明倫小(C)	○主体的に取り組む活動を設定する。 ・係活動や委員会活動 ○夢や志をもたせ、具体的な目標に向けて挑戦する心情を育てる。 ・めあての設定や振り返り	4: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が80%以上 3: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が60%以上 2: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が40%以上 1: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が40%未満	4	96%の児童が、肯定的な評価をしている。保護者は91%、教員は96%である。2学期は運動会や持久走大会などに向けて、個人で具体的なめあてを設定し、その達成のために取り組んだ児童が多かった。今後も児童が主体的に取り組める場づくりを、意識して設定していく必要がある。
安心・安全な環境づくり	安心な環境づくり	○温かい人間関係づくりに努める。 ・学校いじめ防止基本方針の具体的な運営 ・教育相談の充実 ・配慮を要する児童への適切かつ組織的なかわり	4: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が80%以上 3: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が60%以上 2: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が40%以上 1: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が40%未満	4	93%の児童が、肯定的な評価をしている。一方教員は配慮を要する児童への適切かつ組織的なかわりについての肯定的評価が84%であり、前期の100%から下がった。早期解決が困難なケースの子どもが増え、その対応に苦慮したことが影響していると思われる。今後は外部機関との連携と共に、担任や教育相談担当、生徒指導主任を中心に組織的な対応を心がけていきたい。
	安全な環境づくり	○適確な安全指導を行う。 ・無言の教室移動 ・正しい廊下歩行 ・室内での落ち着いた学校生活 ・安全な登下校	4: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が80%以上 3: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が60%以上 2: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が40%以上 1: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が40%未満	4	85%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は肯定的評価が93%であり、児童は前期評価と変わらないが、教員は10%も伸びた。学校全体で、重点目標を掲げ取り組んできた成果である。進学・進級に向けて、落ち着いた学年が締めくくられるよう今後も取り組みを続けていく必要がある。
業務改善	学校の組織等		4: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が80%以上 3: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が60%以上 2: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%以上 1: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%未満	4	81%の教職員が、肯定的な評価をしているが前期より5%下がった。会議の時間短縮は進んできているが、2学期はたくさん行事を抱え、会議の数も多かったことが影響している。行事等の精選も考えていかなければならない。
	会議の時間短縮	○会議の効率的な運営を図る。 ○会議の精選を図る。			
	日常的な業務		4: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が80%以上 3: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が60%以上 2: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が40%以上 1: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が40%未満	4	91%の教職員が、肯定的な評価をしている。データの共有化がさらに進み、より効率的になっているといえる。今後は、データ管理やメール処理等、全職員で周知、徹底していきたい。
	勤務状況		4: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が80%以上 3: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が60%以上 2: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%以上 1: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%未満	3	前期評価より1%下がり、66%の教職員が、肯定的な評価をしているが、35%は否定的である。会議や提出物等を見直し、精選していった。そして、時間確保に努め、教材研究や子どものかかわりの時間を増やす環境づくりに考えていきたい。

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

7 次年度への改善策